

家康公の青春!スポット

自らの足場を固めるように、東三河の統一を図り、遠江へ進出した家康公。
上ノ郷城への夜襲、堀川城での暴虐、引間城での女城主の供養など、若かりし日の行いを見てみよう。

静岡・浜松

4 堀川城跡

ほりかわじょうあと

家康公若き日の
残虐な戦いの跡

1567(永禄10)年、今川氏への忠心を持つ村人たちによって築城。家康公は、たった1日で城を攻め落とし、城を守っていた約700人を打首にした。さらに、その首を都田川の土手に並べたという残虐な話がいまも伝えられている。城址北側にある獄門跡は、多くの村人が処刑された場所を示している。



053-522-4720(奥浜名湖観光協会) 静岡県浜松市北区鶴江町気賀5261 周辺自由

静岡・浜松

5 元城町東照宮

もとしろちょうとうしょうぐう

家康公が暮らした城跡に立つ神社

家康公の没後270年である1886(明治19)年に、引間城跡に創建。1570(元亀元)年、引間城を取り込み形で浜松城を築城した家康公が生活していた城跡である。また豊臣秀吉が訪れた城でもあったために、2人の武将を天下人へと導いた場所として「出世神社」とも呼ばれている。



053-452-1634(浜松市観光インフォメーションセンター) 静岡県浜松市中区元城町111-2 周辺自由

愛知・新城

6 満光寺

まんこうじ

一番鶏の鳴き声に助けられた逸話が残る

家康公が武田軍から逃げている途中、この寺に宿泊。鶏が鳴いたら起こすように命じて床に着いたが、鶏が夜明け前に鳴いたので朝を待たずに出発。この直後に寺は武田勢に囲まれたが、家康公は、すでに遠く離れており、命拾いをしたという逸話が残されている。後にその褒美として三石を与えたという。



0536-34-0116 愛知県新城市下吉田中140 公開は10:00~15:00 平日(土・日・祝は営業) 志(1人V300程度)

歴史トリア

家康公の命拾い

満光寺の鶏、山中八幡宮の鳩ヶ齋、浜松八幡宮の桶など、家康公の命拾いの逸話は数多く残る。戦場ではない場所で、生き物や神仏に命を助けられる不思議な話が多い。

愛知・豊川

1 牛久保城跡

うしくびょうあと

今川からの自立を
知らしめた戦いの場

1529(享禄2)年築城とされる平城。桶狭間の戦いで主君の今川義元を失いながら、故郷の岡崎に留まった家康公。その去就を明らかにしないまま、1561(永禄4)年に今川氏の拠点である牛久保城に奇襲をしかけた。この時、城は攻略できなかったが、自立を目指していることを表明することになった。



0533-89-2206(豊川市観光協会) 愛知県豊川市牛久保町城跡 周辺自由

愛知・蒲郡

2 上ノ郷城跡

かみのごうじょうせき

今川方の有力者である
鶴殿氏を倒す

今川氏の勢力の一員だった鶴殿氏が本拠地とした城。三河統一を目指す家康公が、1562(永禄5)年に攻略。初めは苦戦していた家康公が忍者を使って夜中に火をつけ、城内混乱のうちに攻め落とし、城主の鶴殿長照は討ち死にしたと伝えられる。蒲郡市博物館では上ノ郷城の御城印の販売もある。



0533-68-1881(蒲郡市博物館) 愛知県蒲郡市神ノ郷町城山 周辺自由 ※蒲郡市博物館は10:00~17:00(入館~16:30) 月曜、第3火曜

静岡・浜松

3 椿姫観音

つばきひめかんのん

供養の花に因んで
名付けられた観音

家康公からの引間城の明け渡しを要求に応じず、城を死守しようとした女城主お田鶴の方。最後まで懸念に戦って討ち死にしたことに感動した家康公は、お田鶴の方と侍女18人を手厚く葬ったという。親交のあった築山殿も椿の木を植えて供養し、城下の人たちもその死を悼んで供養を続けたという。



053-452-1634(浜松市観光インフォメーションセンター) 静岡県浜松市中区元浜町133 周辺自由

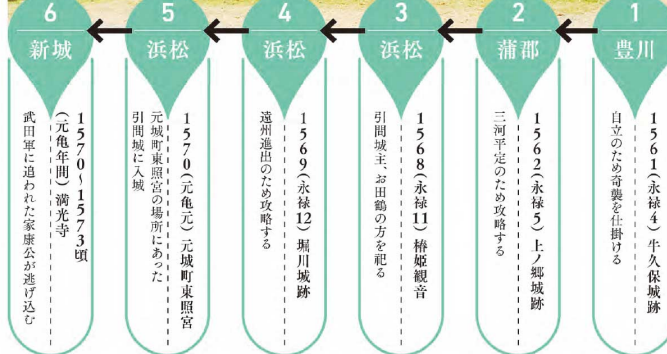
関連する人物

お田鶴の方

おたがのあた

引間城の5代目城主。上ノ郷城で討ち死にした鶴殿長照の妹であり、家康公の正室築山殿とも親戚という関係。

満光寺本堂



若かりし家康公が
選り取った自立への道

1547(天文16)年、父広忠は敵対する織田軍に対抗するため、今川義元に援軍を求めた。その見返りに義元が人質を要求したため、家康公が人質となることに。ところが駿府までの道中で誘拐され、そのまま織田方の人質になってしまった。その2年後に人質交換で今川方へ送られて、その人質生活は約13年にも及んだ。ただ人質といっても義元にしてみれば家臣の候補でもあり、今川家の軍師で僧侶の太原雪齋に教育させるなど大切に扱ったという。家康公はよく学び、その成長とともに元服、結婚、初陣などを経験していった。そして1560(永禄3)年、運命の桶狭間の戦いに参戦。義元が没したことで家康公の立場は危うくなり、岡崎城主として自立する「今川家臣として引間合戦をする」などの選択肢から自立の道を選ぶのだった。そして秘密裏に織田信長と和睦を進めて、豊川の牛久保城や蒲郡の上ノ郷城を攻めて東三河をまとめ上げ、遠州にも進出した。桶狭間の戦いから1570年(元亀元)に浜松城を本城にするまでを、約10年で成し遂げたのだ。しかしながら、その後も三方ヶ原の戦いなど、天下統一のための武田軍との激戦が待ち受けているのであった。

7 人質生活から自立し、東三河や遠州へ進出

人質として悔しい思いをしながらも、今川家では家臣候補として教育を施された家康公。桶狭間の戦い後の自立を成功させ、時には非情なまでの戦い方をして東へと歩を進めていったのである。